

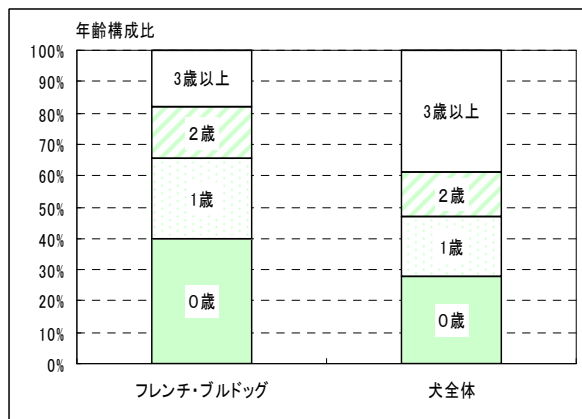


フレンチ・ブルドッグで気をつけたい病気は？

■フレンチ・ブルドッグの疾患統計

【図1】年齢構成

2004年4月1日から2008年3月31日までにアニコムクラブの共済契約に加入したフレンチ・ブルドッグ(0-8歳)は14,125頭で、犬全体の2.1%を占めていた。また、犬全体で2歳以下は68.9%であるが、フレンチ・ブルドッグで**2歳以下が占める割合は82.1%であった**(図1)。



※2004年4月1日から2008年3月31日までにアニコムクラブの共済契約に加入した犬0-3歳469,001頭を対象に、フレンチ・ブルドッグ契約割合および年齢構成を算出した。

【図2】フレンチ・ブルドッグと犬全体の疾患発症率

犬全体の発症率と比較してフレンチ・ブルドッグの発症率が高い疾患は、18分類中13疾患あり、その中でも、特に高い疾患は、

**感染症2.5倍、
皮膚疾患2.0倍、
寄生虫疾患1.9倍**であった(図2)。

※契約満了または死亡解約となった各個体の1年毎の契約について、その契約が開始した年齢毎に1契約=1頭とみなし、当該疾病について1回以上の請求があった犬の割合を罹患率とした。

		フレンチ・ブルドッグ(a)	犬全体(b)	a/b
1	15. 感染症	2.5%	1.0%	2.5
2	12. 皮膚疾患	44.6%	22.1%	2.0
3	16. 寄生虫症	2.1%	1.1%	1.9
4	7. 神経疾患	3.4%	1.9%	1.8
5	8. 眼の疾患	15.6%	9.3%	1.7
6	17. 損傷	6.7%	4.0%	1.7
7	6. 生殖器系疾患	3.1%	1.9%	1.6
8	9. 耳の疾患	22.6%	14.6%	1.6
9	2. 呼吸器疾患	2.8%	2.2%	1.3
10	5. 泌尿器疾患	7.1%	5.8%	1.2
11	11. 筋骨格系疾患	7.2%	5.8%	1.2
12	3. 消化器疾患	14.6%	12.7%	1.2
13	18. 腫瘍疾患	6.9%	6.2%	1.1
14	14. 内分泌疾患	1.3%	1.6%	0.8
15	4. 肝・胆道疾患	1.6%	3.0%	0.5
16	13. 血液・免疫疾患	0.1%	0.4%	0.3
17	1. 循環器疾患	1.1%	4.3%	0.3
18	10. 歯・口腔疾患	0.5%	2.1%	0.2

**フレンチ・ブルドッグは、
犬全体に比べて疾患の発症率が高い。**

**とりわけ、感染症、皮膚疾患、寄生虫症に
要注意！**

